

平成 31 年度使用高等学校  
(第 1 部)  
教科書編集趣意書  
家庭 (家庭総合) 編

目次

	ページ
006 教図 家庭総合 ともに生きる 明日をつくる.....	1

発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名
006 教図	家総 302	<p style="text-align: center;"><b>家庭総合</b></p> <p style="text-align: center;">ともに生きる 明日をつくる</p> <p style="text-align: center;">代表著作者 小澤 紀美子</p>

## 編集の基本方針

生徒自身の生活をよりよくし、豊かな人生に向かう手段を学ぶ教科として家庭科を位置づけました。日常のさまざまな事象が関連し合い、私たちの生活を形作っていることを知るため、右のような模式図を作成し、学習の方向性を明確にしました。

全体を通して、身の回りの気付きからスタートし、地域や社会に向かって学習が広がっていくよう構成しています。

### 編集上特に留意した点

男女の平等、自立と共生、少子高齢化への対応、家庭生活の環境への影響などの社会的な問題に重点を置き、それらの問題を自分で考えるために必要な資料を数多く掲載しています。キャラクターを設定し、生徒個人のプライバシーに踏み込むことなく家族・保育・高齢者の領域を学習できるよう工夫しました。また、学習の導入やまとめとして利用できるよう各単元の始めに「KEYWORD」を設け、重要語句を整理しました。

誰でも使いやすい教科書を目指し、ユニバーサルデザインカラーを用いています。

## 教科書内容の編成，内容の組織，配列

### 第1章 人の一生と家族

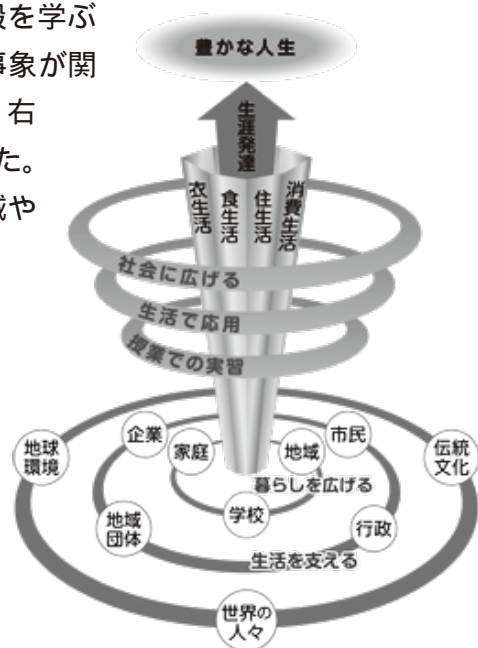
現在、大きな問題となっている「雇用」や「職業労働」について、記述や資料を大幅に増やし、学習を深められるようにしています。また、家庭内暴力について取り上げ、家庭の問題で困ったときの相談先をまとめました。

### 第2章 保育

乳幼児について、最新の科学的知見をできる限り多く取り上げました。乳幼児の発達の様子については、粗大運動の発達に沿った写真で解説し、身の回りの乳幼児に当てはめられるように工夫しています。

### 第3章 高齢者

人口の高齢化や高齢期について、科学的な説明を心がけ、正確な知識や態度が身につくよう工夫しています。社会保障制度について、海外の仕組みを紹介し、改めて日本の制度を考えられるようにしました。



家庭科の学習模式図



家族領域の学習をサポートするキャラクター  
コウタ（中央）と家族

## 第4章 共生社会

ボランティア活動や NPO 活動について、生徒が身近に感じ、参加をうながすような資料や事例を多く掲載しています。

## 第5章 消費生活

金融商品や販売信用などを具体的に扱い、家計を通じて将来に向けた生活設計ができるよう工夫しました。また、消費者の行動が社会を変えることを明記し、一人ひとりが「消費者」としての立場を自覚し、自立できるよう様々な観点から消費行動を見つめています。

## 第6章 食生活

個人の食卓という小さな場から学習をはじめ、世界の食について考えられるように順を追って紹介しています。栄養学など、従来の教科書より一歩踏み込んだ科学的な内容を扱いました。さまざまな授業形態に対応できるよう、1時間でできる調理実習を取り上げています。

## 第7章 衣生活

衣服計画を、購入から廃棄までの流れに沿って学習していきます。生徒が興味をもって取り組めるよう、ファッションコーディネートなど身近な内容にも触れました。また、和服をはじめとした伝統的な衣生活に触れ、先人の知恵を実感できるよう工夫しました。

## 第8章 住生活

家も地域も、その中心は人であるという考え方にに基づき、人間を中心とした視点で住生活をとらえていきます。また、人体寸法と動作寸法を学ぶことで、家の中における空間や動線の意味を実感し、間取りの奥深さを学びます。

## 第9章 環境

私たちの便利で快適な生活を維持するために、さまざまな環境問題が起こっていることが実感できるような、豊富な資料や事例を取り上げています。その上で、個人個人の取り組みだけでなく、社会全体で環境問題に取り組んでいく必要性を感じられるようにしています。

## 第10章 生活設計

生活資源を考える資料として、ライフイベントにかかる費用や WHO の掲げたライフスキルについて扱いました。生活設計を具体的に考えられるように、教科書に登場するキャラクターに将来の夢や希望を語らせ、自らの将来を考える手がかりとなるよう工夫しました。

### 学習指導要領 / 教育基本法との関連

教育基本法に則り、自然や環境への視点や、郷土愛を養うため、衣食住各領域に「環境」及び「伝統」の章を設けました。日本の伝統のコラム「JAPAN」と、それに対応する国際的なコラム「WORLD」(右図参照)を作成し、自分の国を知りつつ、世界を理解できるグローバルな視点を養えるようにしています。また、職業教育の充実を図るため、「プロフェッショナル」と題したコラムを各章の最後にまとめ、具体的な職業紹介や、社会人へのインタビューなども掲載しました。学習指導要領で重視されている言語活動についても、各章の扉を使って生徒たちに話し合いの機会をもってもらえるよう工夫しています。

